

～愛川町議会議員と『10年後の愛川町の未来について』語り合う～

意見交換会 参加者からの意見まとめ

日 時：令和7年6月21日（土）午後3時から

参加者：34名（町民22名、議員12名）

テーマ：『愛川町の未来について』

参加者からの意見
人口減少と高齢化、空き家対策、交通機関の問題、これらを解決するには？ 住んで良かった。住みたい町に・・・ 安全・安心な町
自治会のあり方について再検討する必要性 話し合いの場をつくり、普段から交流し、風通しを良くすること。 行政任せにせず、自分にできるところから無理せず始める。
今と変わらない 理由：行政も議会も、区長・区長会に気を使って、本来の住民と共存していない。 町長の附属機関委員会等も、公募人が2人程度、あと、町と開催する町内の団体・組織の代表者の指定席、これでは行政改革などできない。
誰もが住みたい町になって欲しい。 神奈川県で住みたい町ランキング一番を目指して、行政をして欲しい。
自治会のあり方：自治会はなくなっているのではないか。 行政・町民が自治会に代わる組織を立ち上げなければならない。税金化すべき。全員（世帯）加入。 法人税の収入について、物流会社ばかりではダメ。 本社機能を持った、小さな企業をもっと誘致すべき。 ふるさと納税による収入。 道の駅や、商工会のあり方を真剣に考える。 防災・防犯のあり方が不十分すぎる。 外国人問題の取り組みがダメ。
本日の短い時間の中から聞かれた意見では、明るい未来は出てこなかったように思う。 人口減少、消防団や自治会役員の担い手不足、外国人の増加、公共交通機関が少ない、若い人の興味が町に向いていない・・・ 町行政への期待、町議会への期待・・・ これらの課題を解消する手立てを見つけるのは、大変難しいと感じた。 ただ、本日の取り組みのような、ステップを多くするしかないと思う。（年1回→年2回→年3回） スモールステップを繰り返す。「人（町民どうし、町民と行政マン、町民と議員）」のつながりを強化していくことが大切！

参加者からの意見
町内会・自治会の高齢化、自治会加入率の低減化など、マイナスイメージが多い中、どうやったら活性化できるか、思いが共通する方もいる。 今の、特に調整区域では、地域の空き家等の財産を生かして、新しい若い方たちに入ってきてもらいたい。 そのための手段を準備する。そのための話し合いはどうしても必要。今日のような話し合いができていけば、合意形成ができるのではないかな。
現状、明るい未来に町がなっているとは思えない。 しかし、子どもを持つ親としてはいろいろな責任もあるので、今、自分がやっていること、やっていこうと思っていることを大切にして、日々過ごしていきたい。
人口減少対策、外国人の増加対策、行政区への加入率の低下対策 愛川町で生まれ育った子ども達が他の自治体に移住しないよう対策しないといけないと思う。 子ども達の不登校問題対策。
外国人との共生・半原地区に2寺院がある。細野地区でも戸建てやアパートに住む外国人が多くなった。 地域とのコミュニケーションを高齢者を活用して積極的に行う方法を立案する。 ※20年前の春日台地域で、一部先人が積極的にコミュニケーションし、成功した事例。
公共施設の統廃合！ 地域包括ケアシステムにより、安全安心な社会保障の整備 人口については、3万5千人を維持し、行政サービスが円滑に進むことを望む。 そして、高齢社会は、2050年まで進んでいくが、やはり医療介護、年金、福祉サービスが一体できる地域包括ケアシステムの実現を果たすことで、町の未来があると思う。 少子化は進行するが、歯止めを掛けられるような施策を（目玉事業、他にない）展開することにより、魅力のある町づくりが展開できると思う。
しっかり世代交代して、各々役割を果たしていける社会に。 今の子育て世代の女性が中心になる社会に。（例：30代→（10年後）40代） 外国籍の人達の意見をしっかり聞けるような社会に。 トップが「何をやりたいのか」明確な町に。
高齢化が進行・予想されるが、町民が健康のままできれいに生を終えることが望ましい。 そのための生活環境整備が必要となる。 愛川町に住みたい、人が流入する町となる受け入れ体制の準備が出来ていること。 （産業、経済、教育、他の環境づくり、整備）

参加者からの意見
高齢者、障がい者福祉、外国につながるのある住民対応、教育、公共交通、温暖化対策、人口減少・・・ 今すぐ助けが必要なこともあれば、今から力を込めないと大変なことになる課題もあります。 どれかを取って、他を切り捨てるトレードオフではなく、どれも相互に高め合うシナジーを生み出す。 政策、対策、施策、を対話の中で見つけ出してほしい。
人口減少 自治会の消滅 議会の見える化の推進
少子化が進む中、人口減の始まり。子育て中の人に手厚い行政を。 人間一生学ぶもの、高齢になっても「学ぶ場所」（例えば、語学）を造る。 外国籍の人口が増えているので、「英語」など、学べる場所が欲しい。
今、心配しているのは、外国籍の方が増える中で、更なる共生社会を進めるために、どうした取り組みが必要か？ 高齢化が進む中で、介護など、体制の強化が必要と感じる。認定調査、ケアマネ etc.人が必要ではないか？ ボランティアと言っても、有償にしていかなないとなかなか今後はやる方がいないのではないか？ 観光、自然が豊か、川、絆がある、お金を落として頂ける、しくみを作っていく必要もあるのではないか？
町議の方は、町民の声を聞く機会を増やす（回答をする） 意見交換会は以前のように、フリートーク、無制限で行う。 テーマは検討会として、別開催する。（メンバー限定）
人との距離を近付ける 移動の自由を拡大する 人が集う場所づくり 川を大切にする
移動販売の充実 乗り合いタクシーの運行 一般質問の回答
人口が減っている中で、現状の4～5万人の町、他の市と合併することなく、愛川町として、そのためには「魅力」ある町づくり 愛川町に他の地域から移住してくる「魅力」？みんなで考えましょう。情報を沢山もっている議員のみなさん、よろしくお願いします。
土地制度の改革を行う。農業専用、調整区域 議員の情報発信の活発化 子育て家庭の助成金を シニアのICTスキルアップ

参加者からの意見
集い、語り合う場所 意見を何でも言える場所 答えを出せるおろ一緒に考える場所 今回のカフェ方式が大切なキーポイントに感じた。 議員個人の報告をすべき。要望発信をすべき
今の子ども達が議員になりたいと思える未来にしたい。
10年後も、日本の中のきれいな愛川町をしっかりと残すような教育を大人も子供もしましょう。
人口減少、外国人問題、交通問題など、町民の方々から出てくる課題が共通で、かつ深刻さを増していることが良く分かった。 10年後に愛川町を残すためには、様々な既存のシステムを根本的に変えなければならないと痛感した。
老人ホームは、場所にもよりますが、年寄りが1日3回の食事時となればその時間に集まり、夜は19：30位に消灯して寝る場所です。 基本的に食事、風呂、トイレなどで精一杯、しかも互いに耳は遠い、未来までは語り合えません。そこに「未来図」はありえません。 まずやるべきは、老人ホームを訪れ、人手不足の実態を知る事ことからスタートして下さい。
町の観光地化。 ダム、三増合戦、リニアなど、大型ホテル、町内に走る小型市電等（病院、スーパー等にお年寄りでも自由に乗れる） 自治会町民全員加入！（赤十字、社協会費、不平等改善）
安心して暮らすことができる未来。（外灯、信号、交通機関（バス増便・モノレール）他） 安心して子育ての出来る未来（通学路、学童（車多い、放課後の安全）） 近所で仲良く交流の持てる未来（自治会（隣組・町内会））
人口減少、また、子どもの出生数も減り続けていく中で、これはどこの自治体も頭をかかえているが、愛川町の未来は、決して暗くないものと思う。 まず、自然がたくさんある。川あり、山あり。移住、定住して住んでもらいたいと思いますが、この愛川町の魅力を思う存分愛して、また来たいと思う方・観光交流が増えて、町内にお金を落として（使っていただいて）、数回繰り返して愛川町に来ていただく・・・ 人と人との交流も増えて良いと思う。 高齢者、弱者の方の足の確保 買い物難民を作らない

参加者からの意見

町の人口が減ってきているので、人が入ってくるように会社が増え、雇用がもっと増えれば。
 そのためには、愛川町をもっとアピールして町民、議会、町職員がもっと知恵を使って、発展してもらいたい。

愛川町で働きたいと思える町にしたい・高齢者が元気で自分で行動できる町にしたい
 観光で東京からも来やすい立地条件を生かし、観光客を増やしたい
 農業を発展させ、地産地消を目指し、農業者の所得も増やしていきたい
 交通問題も解決したい

自治会加入率１００％
 移動の足に困らない
 子どもと高齢者の居場所が各所にある
 産婦人科がある

人それぞれの立場で思っていること、困りごとが違う。
 普段話すことのない人たちと意見交換することで違う見方が出来た。
 それをもっと身近なコミュニティの中でやっていけば、愛川全体の豊かさにつながるのではないかと思った。
 愛川町民が愛川の良さを知らなければ、外に発信はできないし、愛川に来てくれる人も増えない。
 大人ではなく、子供たちにも、もっと伝えていくべき。